

刊行にあたって

歯科医師であれば“歯根端切除術”を知らない者はいない。歴史的には19世紀からある術式だが、この“歯根端切除術”という術式名が、いかにも歯根の先端を切除するだけの外科処置という印象を与えている。過去の術式はフラップ、骨窩洞とも大きく、肉芽組織の搔爬、根尖切除に重点がおかれていたが、最終的に逆根管拡大を行い逆根管充填することがこの治療の目的であり、この手術はまさに根管治療そのものなのである。そのため本書では、“歯根端切除術”という用語は避け、“逆根管治療”と表現することとする。“Endodontic Microsurgery”とは、マイクロスコープ下で行う逆根管治療のことであり、合わせて“逆根管治療”と表現する。

前述したように、歯科医師なら誰でも知っている逆根管治療であるが、実際に施術したことがある歯科医師は多くはないと推測される。なぜならば、この術式を学ぶ機会がほとんどないからに他ならない。講義で聞いたことはあっても、臨床のトレーニングを受ける機会がないのが現状である。加えてこの手術は、歴史が長いことから、古い術式や我流がまかり通り、挙句の果てに成功率が低く、腫れて痛い手術というレッテルが貼られたままなのである。

本書は逆根管治療に対する間違った考えを払拭するために、現時点における逆根管治療のスタンダードをわかりやすく解説するものである。

2016年9月

井澤常泰